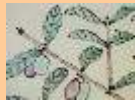


苫東環境コモンズの  
活動をまとめて報告



**haskap**  
**NEWS LETTER**

～コモンズの現地から発信する～

# 勇払原野のSPIRIT

## コモンズの視線

ニュースレター第27号をお届けします。コモンズという言葉はまだまだ一般になじみの薄い言葉ですが、持続可能な地球環境と発展という観点で、「共生」という言葉が久しく見直されていますが、そこに関連が深い「共有」のような意味を含むコモンズの実像は、まだ明確に見えてきていません。ただ、かつて搾取と言えれば資本家が「労働」を対象にしてきたのが、今は「環境」「自然」を独占し、そこからの搾取が改めて問題にされ始めたようです。環境や自然は実はみんなのもの（コモンズ）だから、土地と環境を独占する所有者や資本家による一方的な略奪から守ろう、という動きが背景にあるようです。そうしてこそ、持続可能な発展が約束される、と。

胆振の勇払原野で、コモンズの小さな社会実験をしているともいえる「苫東コモンズ」は、コモンズという運営の中でいくつかの現実的課題が見えてきました。風土は誰れのものなのか、自然の共有はできるのか……。10年の歳月が、地域課題、そのために必要な合意すべき事柄を、浮き彫りにしつつあると言えるでしょう。（草薙）

HP <http://hayashi-kokoro.com/commons00.html>

## TOPIC 1

### コモンズ休暇を拡大、風土の丸ごと享受も



メンバーの高齢化と働きすぎを自覚して、もう少し季節を楽しもうという機運が盛り上がり、昨年からの仕事の時間をやや減らし、山菜など季節を楽しむことにももう少し時間を割くことにしました。

仕事を早めに切り上げて、浜ボーファーやワラビ、写真のようなボリボリの収穫にいそむのです。勇払原野の雑木林はこのような行動を可能にします。2021年度はこれらにささやかな川エビ採りなども加え、個々の季節を丸ごと享受するよう、一連の取り組みを「コモンズ休暇」と名付けて邁進する予定です。当面はスドキとコシアブラ採りででしょうか。この動きはまず7月のハスカップ摘みまでゆっくりと連続します。

## TOPIC 2

### 大島山林の作業 TENT を移設



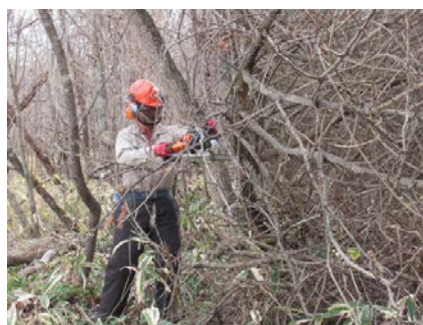
山林の著しい荒れ放題を整理する作業が所定のエリアで一段落したため、山林のほぼ真中に置いていた作業 TENT を、昨年1

0月3日、北端の広場へ移設を完了しました。これに伴い、薪小屋に収納していた機材の主だったものは移動することができたうえ、使い勝手が良くなりました。これらは、ハウスの設営に慣れ機材も貸与してくれる、

農家の migita さんがおられるおかげです。案の定、機動性が抜群となり、車を横付けできる利便性と時間の節約にどれほど役立つかしれません。難点は、早春の雪解け時の浸水。土壌が凍結する胆振独特の現象で、この秋までに改良工事を施す予定になっています。

## TOPIC 3

### 新しい除間伐エリアはツルだらけ



作業拠点の移設は、作業対象箇所が広場の東隣と南隣に変えつつあることにも関係しています。住宅が並ぶアイリス団地に

接した広場東隣の林は、ツルの絡まる、人の寄り付きがたいひどいヤブ状態だったのです。昨シーズンはここに果敢に挑戦し、作業着手しました。

現況は写真のようなツルと枯れ木の多いヤブでしたが、つらい地道な作業の結果、住民の方が「見違えるようになった」と述べるほど変わりました。薪にする材料は少ない、徒労にも見える作業の連続でしたが、環境を変えるには不可欠な作業だったことが一目瞭然となりました。これから、このエリアに刈り払いの径をつけますが、人が往来するようになれば、またより良い雰囲気が醸し出されることが予想されます。

## TOPIC 4

### フォーラムは 20 エゾシカに続き 21 ヒグマをテーマに

一昨年の第7回コモンズフォーラムは、『雑木林の保育とシカの食害を考える～持続可能なコモンズ林業とこれからの対策～』でした。2021年度の第8回は、『今、トラジロウの軌跡に学ぶ勇払原野のヒグマ行動～苫東地域の緑地が果たしている役割と共生の道～』にしました。2年連続で動物がテーマとなりましたが、エゾシカは広葉樹林の更新を妨げるものとして、ヒグ

マは作業の安全の上でも行動特性に留意しておこうとの現実的課題に各々対応したものです。

一応、苫東コモンズの会員を対象にした勉強会の形式ですが、著名な講師をお呼びする関係で、関心のある市民や報道関係者も参加しました。



講師の青井俊樹・岩手大名名誉教授と札幌のコンサル研究員の早稲田宏一氏は、今から25年ほど前に苫東コモンズのエリア

で捕獲されテレメーターを取り付けたヒグマ「トラジロウ」を追跡調査して、ヒグマ行動を可視化して見せたお二人。苫東がヒグマのコリドウになっていることが明らかになりつつある中、相当な時間の経過を経て、初めて詳しいコースの公表となりました。刺激的な書き方が許されれば、流行りの「カミングアウト」に近いでしょうか。これまで人に危害を加えず苫東を往来し「辛うじて共生」してきたヒグマと地域住民が、今後は、前向きな「事実上の共生の継続」ができないのか、知恵を絞ってみたいものです。

**TOPIC 5**

**新人の新規参加で世代交代か？！**



10年ほど前のNPO創立時のメンバーが一人二人と古希を迎えるなどして事業の継続と承継に黄色信号がともる中、この

コールサインに呼応して昨秋から5人の新人が加入しました。このたびの特長は、伐倒のスキルを磨いて自ら林の保育から関わっていきたいこと、そして発生材は自宅の薪ストーブに利用したいという強い願望を持っていることです。これで30代から80代までの年代幅の広い混合チームが生れたことになりませんが、勇払原野に誕生した苫東コモンズという稀有な形態と信託された中身の全般について、これから少しずつ焦らず次の世代につないで行く活動も求められています。

**TOPIC 6**

**丸太の提供2件、薪需給に新たな活路か？！**

トピックの3で述べた通り、保育するエリアは年によって発生材の多寡に差がありますが、昨シーズンはツル伐り除伐がメインになりそうなことから薪材供給が難しくなることが予想され、事務局では近在から広葉樹丸太の受け入れを非公式に打診してきました。幸い、大小2か所から提供のオファーを受け、薪の材料化に向けて作業を開始しました（写真下）。

特に大量に持ち込まれた丸太は、雪解け時の集材作業で土砂混じりとなったうえ、勇払川右岸のミズナラ・コナラ・ハンノキ林でドロノキが卓越するのが特徴で

す。また火付きが良く燃えやすい反面、火持ちが悪い、という特徴をあわせ持っています。



しかし、本場北欧の薪ストーブの暮らしなどを灰聞するにつけ、生活に必要な熱暖房の自然素材は何でも活用していくという

逞しさも必要であることがわかります。事実、熱量を見ても、高級材のナラと比べ半分以下などということはありません。手間暇を惜しまず、みんなで協力しながら仲良く生産し公平公正に分配するという、コモンズらしいシステムとスピリットで、上手に需要と供給の壁を超えながら、活動の運転資金も補てんしたい考えです。

**令和2年9月以降の主な活動**

\*行事末尾の数字は参加者数

- 9/26 sat 作業テントの新設と荷物移動@大島山林 8
- 10/3 sat 作業テント移設作業 7
- 10/10 sat 育林コンペ (札幌ウッドィーズ作業日) 7
- 10/17 sat 育林コンペ 4
- 10/24 sat ヒグマのフォーラム (←概要案内チラシ) 8
- 10/31 sat 育林コンペ発表会 13
- 11/7 sat チェンソースキルアップ研修@大島山林 10
- 11/14 sat 大島山林除間伐着手 12
- 11/28 sat am 除間伐作業 pm1:00 NPO総会 12
- 12/05 sat 大島山林の除間伐作業 13
- 12/12 sat 山の神参拝 am11:00 大島山林ドロノキ前 9
- 12/19 sat 大島山林の除間伐作業 12
- 12/26 sat 大島山林の除間伐作業 (仕事納め) 11
- 1/09 sat 仕事始め@大島山林 12
- 1/16-2/27 大島山林除間伐作業 12+11+8+14+11+10+12
- 3/06 sat 大島山林の藪だし作業+玉切り作業 12
- 3/13 sat 大島山林の藪出し作業+玉切り作業 14
- 3/20 sat 大島山林玉切り作業 (午後理事会) 11
- 3/27 sat 薪割り+玉切り作業@大島山林 8
- 4/03 sat 薪割り+玉切り作業 15
- 4/10 sat 薪割り+玉切り作業@大島山林 12
- 4/17 sat 薪割り+玉切り作業@大島山林 7
- 4/24 sat 薪割り+玉切り作業@大島山林 11

\*5/2 から 9/19 まで 225 名、9/26-4/24=306 延べ約 531 名

**編集後記**

■眼前にある勇払原野のフィールドは実に恵まれた宝だと改めて思う日々ですが、「苫東コモンズ」という仕組みも偶然と幸運から生まれた稀有な建付けで、その分微妙な気配りや力加減も不可欠です。本気で知恵を絞れば可能性は広がる感じもあります。今はひとつの正念場。■薪ストーブ人気は衰えませんが、エネルギーを自賄いする心地よさ、そしてそこに至るためのキツイ山仕事とその継続。大型機械に頼れないローカルな営みこそ身上。でも、いつまで続く？力続く限り。

**お問い合わせ**  
 NPO 法人苫東環境コモンズ 事務局 草薙 健  
 雑木林&庭づくり研究室 <http://havashi-kokoro.com/>  
[kt-884-556@nifty.com](mailto:kt-884-556@nifty.com) 携帯 090-6999-2765